

長田下地域 振興会だより 第24号

2015年(平成27年)12月24日発行

振興会大運動会 10/11 ~高い秋空・頑張る大人・そして元気な子ども~

当日は好天に恵まれ、参加130名あまり、元気でプレイしました。中村悠吾くんの開会宣言、菅田さんと次郎水さんの宣誓などにより開始。4組に分かれて互いに競い合いました。

将来を担う子どもたちの元気な姿が見られたパン食い競争、熟年者の活躍が見られたグラウンドボーリング。チーム全員が懸命に投げ上げた紅白の玉入れ。さらに、防災訓練を意識した担架運びなどで、皆仲良く汗を流しました。その後は、安芸高田市消防署スタッフによる防災訓練を行い、昼食のうどんを美味しく頂き、成績発表。そして、丸岡拓実くんの閉会宣言で、無事終了しました。

ふれあいと絆の充実した行事でした。関係者の方に感謝します。(担当T.K)



参加者の勇姿



盛り上がった玉入れ競技



防災訓練…消防士 丸岡一三さんたちによる指導

「夏の思い出」特集

おかげんさん 7/18

長田下地域の行事として行われるようになって10年以上が経つ『おかげんさん』。宮島管弦祭と関わりのある夏祭りの一つです。参加する子どもたちの顔ぶれも次世代へと代わりつつあります。

今年もにぎやかに最後まで、みんなで歩ききることができました。大人になっても、この提灯の灯りの思い出は、目に焼き付いていることと思います。

(担当T.K)



住民の無事を願って

いかだ遊船 ～夏の思い出・・川遊び～ 8/1

長谷尻付近の三篠川で、今年も恒例のいかだ遊船行事が行われました。いかだ遊船は、子どもたちの楽しみであり、2回行い、集まった子ども会の保護者7人、子ども11人と、明神クラブ会員7人が参加しました。2回目は、保護者も乗船し、子どもたち・明神クラブ会員との夏の思い出になったことでしょう。お昼は、自分たちで支度したカレーを食べました。(担当K.M)



子どもたちは元気です

盆踊り 8/14

毎年行われる盆踊りですが、地元の人はもちろんのこと、最近では若い人たちが多く見に来られています。そして、そのお子さん達も来られており、盆踊りの会場は、お爺ちゃんお婆ちゃんにはじまり4世代の人達でにぎわい、ご先祖様の供養と交流の場になっています。花火も上がり、地域の皆様にも楽しんで頂けたのではないのでしょうか。(担当K.M)



四世代の顔・顔、そして声・声

ひとはまつり 8/29 ～三年ぶりの『ひとはまつり』も雨のなかでしたが～

一昨年、昨年と台風接近等によって中止させられてきた『ひとはまつり』は、今年も始めにぽつぽつと、その後に途切れなく小雨が会場を包んでしまいました。それでも『きらら』の人たちは、「やりぬきたい」という気持ちで自分の持ち分に取り組んでいました。長田下地域自治振興会の方をはじめ、多くの方々が応援している姿に本当に胸が熱くなります。

私たち家族にとって、『きらら』の人たちが地域の方々に交じて、目を輝かせて活躍している姿は、何物にも代えがたいものです。本当にありがとうございました。【家族会の方の談】(担当B.T)



振興会が担当した飲食ブースの一コマ

「長田下地域の文化財保護と伝承」について考える⑮

今回も、前号に引き続き、地元の「古い地名」について調べることにしました。現在では不明な点が多く、文献をさぐり、近くの方に聞きました。

○「鳥居原」…長田7区下の谷川さん宅周辺の広い田地を「鳥居原」と呼んでいる。谷川さん宅の裏山には、昔、大きな「松尾神社」があり、その大鳥居の見渡せる土地という意味があるのかと想像した。

○「向田淵」…「むかいだぶち」と読む。この地は、松野俊寿さん宅から古田芙美夫さん宅周辺の広い地域を指している地名である。名前の由来は分からないが、昔の人が苦労して開墾した田地が、淵のごとく水がよどみ、水はけが悪く、湿田が多かったのかもしれない。近所の方と話していたら、田村チズ子さん宅を、昔は「向田淵屋」と屋号で呼んでいたそうで、昔の地名を物語る新発見をした思いであった。



向田淵の田園

○「中須賀」…今の真徳寺さんの川向こう一帯を中須賀（なかすか）と呼んでいた。中須賀とは、中州のことで、川の中で水面に出て、島のようになった所をいう。現在は、昭和60年頃のは場整備事業により、田んぼが整地され、護岸も整って、中州の跡も見えないが、昔は葦の茂った中州であったらと想像する。中須賀の地名は、坂や戸島、白木町井原などにもある。



中須賀はさすがに広い

○「神田」…この地名は、現在、ほとんど聞かれないが、ひとは共同ホームの宿泊棟が建っている所の横の少し小高くなった広い田んぼの一帯を神田（じんで）というそうだ。

神田とは、神社に付属して収穫した米などを祭礼や神官の給料などに使う田地のことである。この神社とは、おそらく、海渡（うと）の三輪明神社か、松尾の岡山八幡宮のことであろうと考えられる。

○「明神谷」…谷の名前かと思ったら、長田4区の地名である。昔、古老が明神迫とも言っていた。明神というのは、神様を尊んでいう言葉であり、歴史資料にも「水野社」とあり、水本英生さん宅の裏に、水神さん（明神さん）が祭られていたことも分かった。水本さんは、家を新築される時、「神社の跡地に巨岩があったので、神にかかわる石でもあるので、丁重にお払いして、大地に埋めた」と言っておられる。

以上のように、長田下地域の昔の地名をざっとなぞってみました。まだ調べ方が乱雑です。住民の皆様の知恵をお借りして、いろいろな文化財や民俗資料を発掘したいものと思います。これからもよろしくお願ひします。 (担当F.T)

長田下地域人物伝⑨

～横笛の内藤さん～

今回は、長田5区の内藤憲明さんを紹介します。

時々、内藤さんの吹く横笛が私の家に聞こえてきます。横笛の音色はとても優しく、初めは誰が吹いているのかと思っていました。

内藤さんは横笛が上手で、地域の獅子舞では太鼓の吉元さん、笛の内藤さんと言われています。地域の子供たちにも教えていて、私の息子も習っていました。他の地域からも声がかかり、獅子舞の時期は忙しいそうです。

内藤さんが笛を吹くようになったのは、小学校4年生頃からだそうです。長田神社で9月にある例大祭の獅子舞の練習で笛を習い始めたそうです。その頃は、地域の4年以上の小学生は例大祭までの10日間、毎日練習したそうです。教えてくれたのは、6区の吉元光幸さんのお父さんだそうです。もちろん楽譜などはなく、吹くのを見せてもらったり、口伝えで教えてもらったりしたそうです。

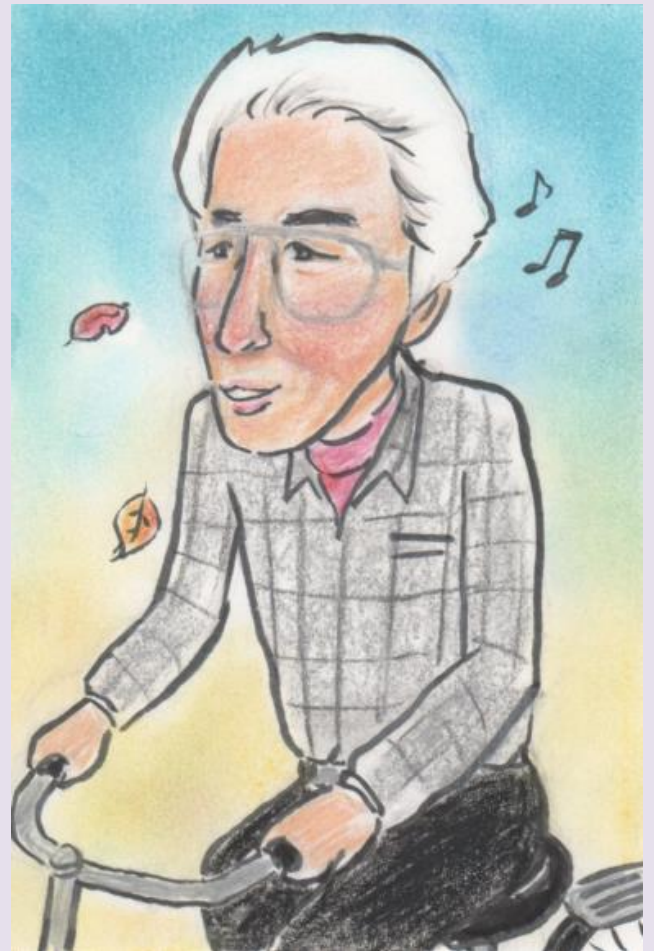
今の獅子舞では、笛の曲は2曲だけやっていますが、昔は5曲ぐらいあったそうです。ずっと吹いていなかった曲を思い出して吹いてみると、吹けたそうで「小学生の時に習ったのが吹けるとは思わなかった。」と自分でもびっくりしたそうです。

昔の獅子舞は、内藤さんの家から、大八車に荷物を乗せて出発し、今の長田4・5・6・7区の祝い事のあった家々をまわり、内藤さんの家に帰ってきていたそうです。朝出発し、帰ってくるのは夜になったと言うことです。その頃の笛は、5区の沖本カズコさんのお父さんが吹いていたそうで、内藤さんは沖本さんの後を継いでやるようになったそうです。

内藤さんの話を聞いて、私は獅子舞の笛も、誰かが後を継ぎ子供たちに伝えてきたからこそ、今も獅子舞が続いているんだなと思いました。(途中、10年くらい獅子舞が途切れたこともあったそうです。)

最後に、後継者の話になりました。内藤さんは「心配せんでも、ちゃんと育てているよ。」と言われていました。

これからも、お元気で活躍されることを願っています。(担当Y.H)



イラストは Ta・Ko さん